集中治療室でせん妄状態の患者が安心できるケア方法の開発-患者の経験を基盤とした評価-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阿部, 美香 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003379

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 41 号

集中治療室でせん妄状態の患者が安心できるケア方法の開発 - 患者の経験を基盤とした評価

（Development of a care method in which patients with delirium in intensive care unit can feel safe: Evaluation based on patients’ experience）

阿部　美香（あべ　みか）

博士（看護学）

論文内容の要旨

【目的】

集中治療室（Intensive care unit; ICU 以下、ICU）でせん妄状態の患者（以下、患者）は、精神的危機に直面している。そこで、患者の経験を基に、ICU で患者が安心できる看護師の関わり方を開発した。

【方法】

患者の経験を参考に看護師の関わり方を考案するため、研究を二段階構造で実施した。第 1 研究では、せん妄から回復した患者を対象に非構造化インタビューを実施し、現象学的研究の手法で分析して、患者がせん妄を発症していた時の経験を明らかにした。第 2 研究では、患者の経験への対応に適した理論を選択し、ICU 看護師（以下、看護師）が実践可能な方法に適用させた介入ケアを考案し、対照群のある中断時系列デザインを用いた準実験研究によって患者の経験の変化を確認した。

【結果/考察】

第 1 研究の結果、患者は、情報を誤って認知することにより気掛かりが生じ、それを医療者に伝えようとしていた。しかし、伝わらないと判断して身の危険を感じ、恐怖を抱くに至っていた。そこで、せん妄状態で情報の認知を誤りやすい患者でも、気掛かりを医療者に伝えられたと感じられるような関わりを看護師が提供できれば、患者が身の危険を感じて恐怖に陥らずに済む、すなわち安心できると考えた。そのため、第 2 研究では、人が相互交流において直観的に安全と感じる時の神経生物学的反応と相互交流のポイントを提唱したポリヴェーガル理論を基盤に介入ケアを考案した。これは、看護をする際の患者への接し方を規定し、(1)患者の顔の正面から視線を合わせる、(2)こちらからの指示をする前に患者の体験や要望を尋ねる、(3)話し声は抑揚をつけて柔らかくはっきりとし、(4)身体に触れる場合は(1)～(3)をしてから、(5)せん妄患者の経験の意味を知った上で関わる、の 5 点を実践するものとした。結果、介入群 3 名のうち 1 名はせん妄と診断、2 名はせん妄には至らなかった。3 名とも、せん妄の症状がいくつか出現していた中でも安心できた出来事として、苦しみが生じた時に看護師が苦しみを理解して対応してくれた経験を語った。看護師は、患者の表情に気付けたという自身の変化を自覚し、患者が穏やかに過ごせた時間があったと評価した。

【結論】

介入ケアを受けた患者は、看護師との関わりによって安心できた出来事を認識していた。介入ケアにより、精神的危機を回避できる可能性が示唆された。